

人物編（最上徳内、近藤重蔵、高田屋嘉兵衛等）

- Q 1 アイヌの人々は太古から、北海道とその周辺地域に居住し、日本の北方地域内を
行き来していた。国後島と色丹島で採集された約7,000～1,600年前の石器に使われ
た黒曜石は、北海道の紋別郡遠軽町や常呂郡置戸町が原産地であることが判明して
いる。採集された石器が使われた時代は、何時代？
- A：縄文時代 B：弥生時代 C：古墳時代 D：飛鳥時代
- Q 2 1786（天明6）年、国後島・択捉島・得撫島を探検した人物は？
- A：最上徳内 B：近藤重蔵 C：大黒屋光太夫 D：間宮林蔵
- Q 3 1789（寛政元）年、国後島や目梨（現在の北海道目梨郡羅臼町周辺）に住む
アイヌの人々は、松前藩とアイヌの人々との交易場所であるクナシリ場所（国後島
の交易場所）の請負人・飛騨屋に不満を持ち和人（北海道に渡ってきた日本人）を
襲った。この戦いを何というか？
- A：クナシリ・メナシの戦い B：シャクシャインの戦い
C：和人襲撃 D：飛騨屋事件
- Q 4 1798（寛政10）年、最上徳内らと国後島・択捉島を探查し、択捉島に「大
日本恵登呂府」の標柱を建てた幕府の役人は誰？
- A：近藤重蔵 B：近藤勇 C：大黒屋光太夫 D：間宮林蔵
- Q 5 択捉島への航路を開き、さらに17か所に漁場を開いた商人の名前とその出身地
は？
- A：近藤重蔵・江戸 B：高田屋嘉兵衛・淡路
C：大黒屋光太夫・伊勢 D：間宮林蔵・常陸
- Q 6 1812（文化9）年、国後島の海上でロシア艦に捕らえられた人物は？
- A：間宮林蔵 B：高田屋嘉兵衛 C：松浦武四郎 D：ラクスマン

- Q 7 19世紀初め、樺太を幕府直轄地とする際、幕府から派遣され、樺太が島であることを確認し、海峡にその名を残す人物は？
A：間宮林蔵 B：高田屋嘉兵衛 C：松浦武四郎 D：松田伝十郎^{でんじゅうろう}
- Q 8 1853（嘉永6）年、長崎に来航し長崎奉行に国書を提出し樺太と千島の国境を定めたいと幕府に申し入れたロシアの使節は？
A：プチャーチン B：ゴローウニン
C：アレクサンドルI世 D：ディアナ
- Q 9 1855（安政元）年、下田でロシアと日露通好条約を平和裏に締結したときの日本側の交渉代表者は？（ヒント：元は豊後国日田藩の重役）
A：西郷隆盛 B：伊藤博文 C：川路聖謨^{かわじとしあきら} D：徳川家定
- Q10 1945（昭和20）年、ソ連に占領された北方領土を米軍の保障占領下に置いてほしいと連合軍最高司令官マッカーサー元帥に陳情した安藤石典^{いしすけ}とはどういう人物？
A：首相 B：北海道知事 C：根室町長 D：元陸軍大将

江戸幕府の巡察隊の派遣

ラクスマンの来航などロシアの南下の動きに対して、幕府は、国防上の必要から、千島・樺太を含む蝦夷地を幕府直轄地として統治することとし、1798年（寛政10年）4月、180余名の大規模巡察隊を蝦夷地に派遣しました。このとき、支配勘定近藤重蔵の班は、最上徳内等と国後、択捉を調査し、択捉島に「大日本恵登呂府」と書いた国土標柱を建て、この年の暮に江戸に帰任しました。

「大日本恵登呂府」標柱



近藤重蔵



漁場・航路の開拓

翌1799年（寛政11年）から1800年（寛政12年）にかけて、近藤重蔵は高田屋嘉兵衛等とともに再び国後島、択捉島に渡り、本土の行政のしくみを取り入れた郷村制をしいたり、漁場を開いたり、島々への航路を開いたりしました。高田屋嘉兵衛が自分の持ち船「辰悦丸（しんえつまる）」に乗り、国後島と択捉島の間を航路を開き、択捉島に17か所の漁場を開いたのもこの頃です。

また、幕府は、択捉島以南の島々に番所を設け、外国人の侵入を防ぐために役人を常駐させました。1801年（享和元年）からは、南部藩と津軽藩の兵、各100余名が守備にあたりました。